

令和元年度 校長経営戦略支援予算【加算配付】配付申請書(選定校記載用)

(校園コード 642390)

※校園コードを入力してください。

学校名 十三中学校

※学校名は校園コードを入力すると自動で表記されます。

1 配付額 200,000 円 → 決算額 160,050 円

2 自校の現状・課題(※小・中学校においては、学力課題に限定)

『全国学力・学習状況調査』や『チャレンジテスト』において、本校の各項目平均正答率は大阪府・市の平均にも及ばず、学力の向上が長年の課題である。また『全国体力・運動能力、運動習慣等調査』においても、部活動や学校行事などを通した各種の取組みにより全国平均を上回る種目も一部出てきてはいるが、継続してさらなる伸長を図る必要がある。一方、これまでも安心・安全宣言を掲げ、信頼される学校づくりに取り組んでいるが課題は山積している。また不登校生徒についても30年度末において現2・3年では15人。各学級に1人から2人いる状況である。取り巻く環境によっては、どの児童生徒にも起こり得ることとして捉える必要がある。学級及び学年等で生徒同士が安心して生活し学習できる教育環境を維持するのは教員の最大の責務である。そこで学級等の人間関係を客観的に把握するために、「hyper-QU」テスト及びCRTなどを用いて集団の特性を確認しながら、効果的な道德心・社会性の成長を促し、学力向上の取組を進めていかなければならない。

3 年度目標(※小・中学校においては、学力向上の目標を記載すること)

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

○令和元年度の後期新体力テストにおける標準化得点を、前期より向上させる。(標準化得点とは、全国体力・運動の力、運動習慣等調査の本市の平均点数が、それぞれ100となるよう標準化した得点のこと)

目標に対する達成状況(取組完了時)

達成

男子44.11を100とする⇒39.79は90.20、女子48.20を100とする⇒48.89は101.43

B

4 年度目標達成に向けた取組内容(予算反映するもののみ記載)

取組内容①【施策2 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

○「hyper-QUテスト」に対応した標準学力検査を実施することにより、学級内の人間関係を精査した上で、面談や家庭訪問に活かし、効果的にいじめの予防、早期発見、早期対応を行う。また、学習における3観点の実現状況の妥当性・客観性を高める手法として活用し、早期の学力低下を把握し対応する。

5 年度目標に応じた事業効果を測る指標(期待する効果等)

①各校内調査において、いじめの申告数を5件以内に抑える。
②昨年度の不登校各生徒(2・3年生)の欠席数を昨年度より減らす。

達成

指標に対する達成状況(取組完了時)

B

①校内調査において、いじめの申告数は3回の調査で総計7件だった。
②昨年度の不登校各生徒(2・3年生)の欠席数を昨年度より平均25日減った。

※事業効果は必ず数値目標を設定のうえ、進捗状況を測ることができる内容としてください。

6 年間スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	標準学力検査 模擬テスト 及び対策演習			グループ学習による 標準学力検査対策				次年度に向けた 標準学力検査対策	
効果検証	前期 QU テスト	前期 標準学 力検査			後期 QU テスト	後期 標準学力 検査	効果 分析		

【裏面に続く⇒】

取組

1

(校園コード 642390)
学校名 十三中学校

7. 取組内容・予算内訳

(1) 取組内容【施策番号 施策名】

取組内容①【施策2 安心できる学校、教育環境の実現】

○「hyper-QUテスト」に対応した標準学力検査を実施することにより、学級内の人間関係を精査した上で、面談や家庭訪問に活かし、効果的にいじめの予防、早期発見、早期対応を行う。また、学習における3観点の実現状況の妥当性・客觀性を高める手法として活用し、早期の学力低下を把握し対応する。

委員会使用欄

達成

B

予算内訳

グループ学習活用ホワイトボードの購入

ホワイトボード：@40,000×2セット 80,000

ホワイトシート：@10,000×12枚 120,000

期待される効果

①グループ学習を取り入れた学力検査対策で、標準学力検査で求められる判断力・表現力を育成できる。
②ホワイトボードを活用したグループ学習により、学力

向上をしながら、仲間づくりができ、いじめの予防ができることで後期のQUテストにおける被侵害得点が前期と比較して低くなる。

(2) 取組内容に対する実施スケジュール

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
取組み	標準学力検査 模擬テスト 及び対策演習			グループ学習による 標準学力検査対策				次年度に向けた 標準学力検査対策	
効果検証	前期 QU テスト		前期 標準学 力検査		後期 QU テスト	後期 標準学力 検査	効果 分析		

(3) 取組内容に対する中間報告

- スケジュールどおり実施できている。
 スケジュールにやや遅れがあるが、取組は予定どおり実施できる見込みである。
 スケジュールに大幅な遅れが出ている。(□他責・□自責)
 [大幅な遅れがある場合]理由及び対処方法(年度末到達目標の修正など)

(4) 取組内容に対する決算内訳

決算内訳

ホワイトボード：@19,250×2セット 38,500

ホワイトシート：@9,350×13枚 121,550

※取組内容はPDCAサイクルを意識して設定してください。委員会使用欄は空欄としてください。